

文武両道・容姿端麗のエリート生徒会長を…

媚薬漬けにして弄び…

鬱屈とした学園生活の慰みとする…

悶絶の
媚薬濡れ学園



西に傾いた太陽：
それに照らされる無人の教室：

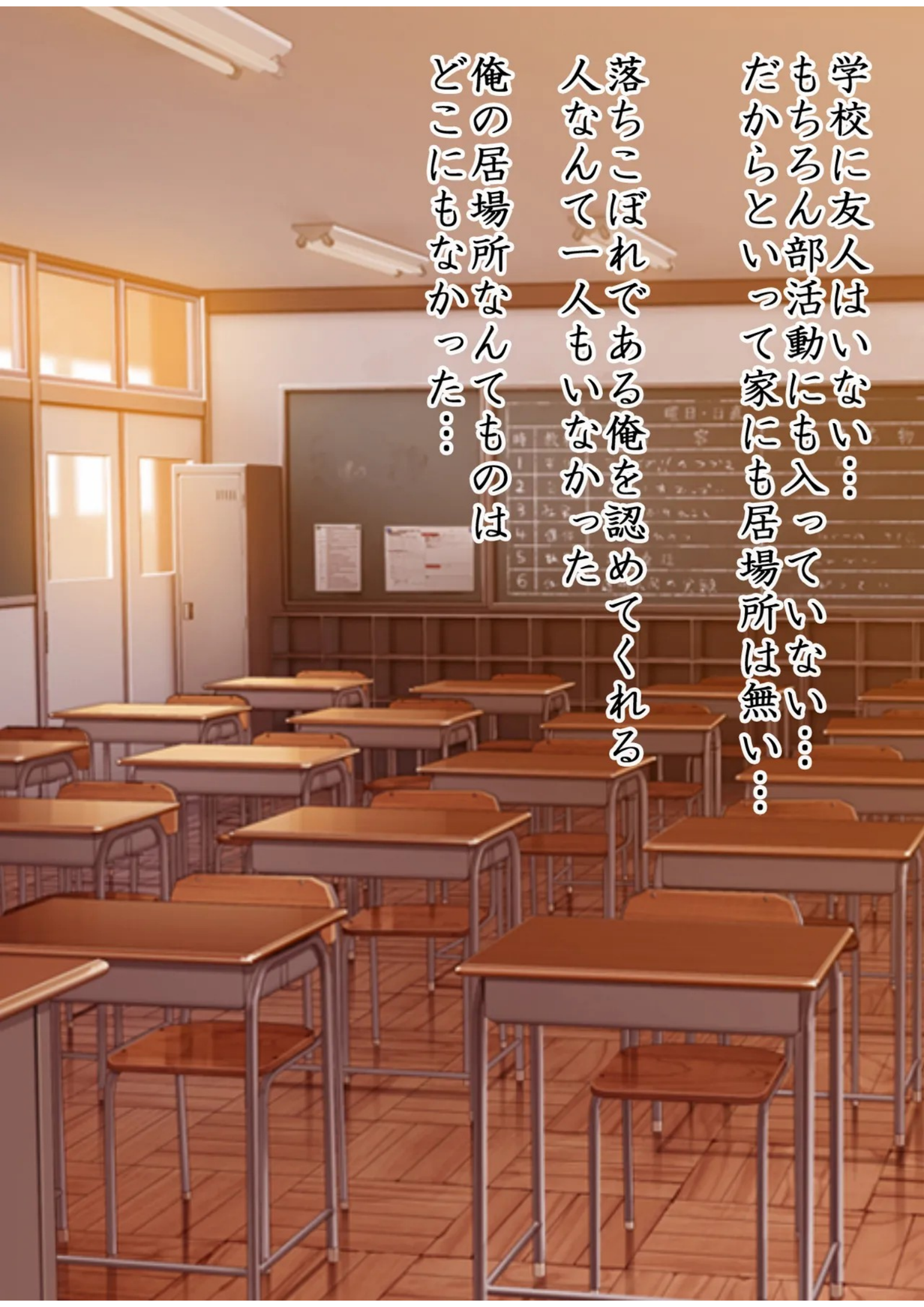
俺は、窓際最後列の自分の席に
鬱屈とした気分で座っていた



学校に友人はいない…
もちろん部活動にも入っていない…
だからといって家にも居場所はない…

落ちこぼれである俺を認めてくれる
人なんて一人もいなかった

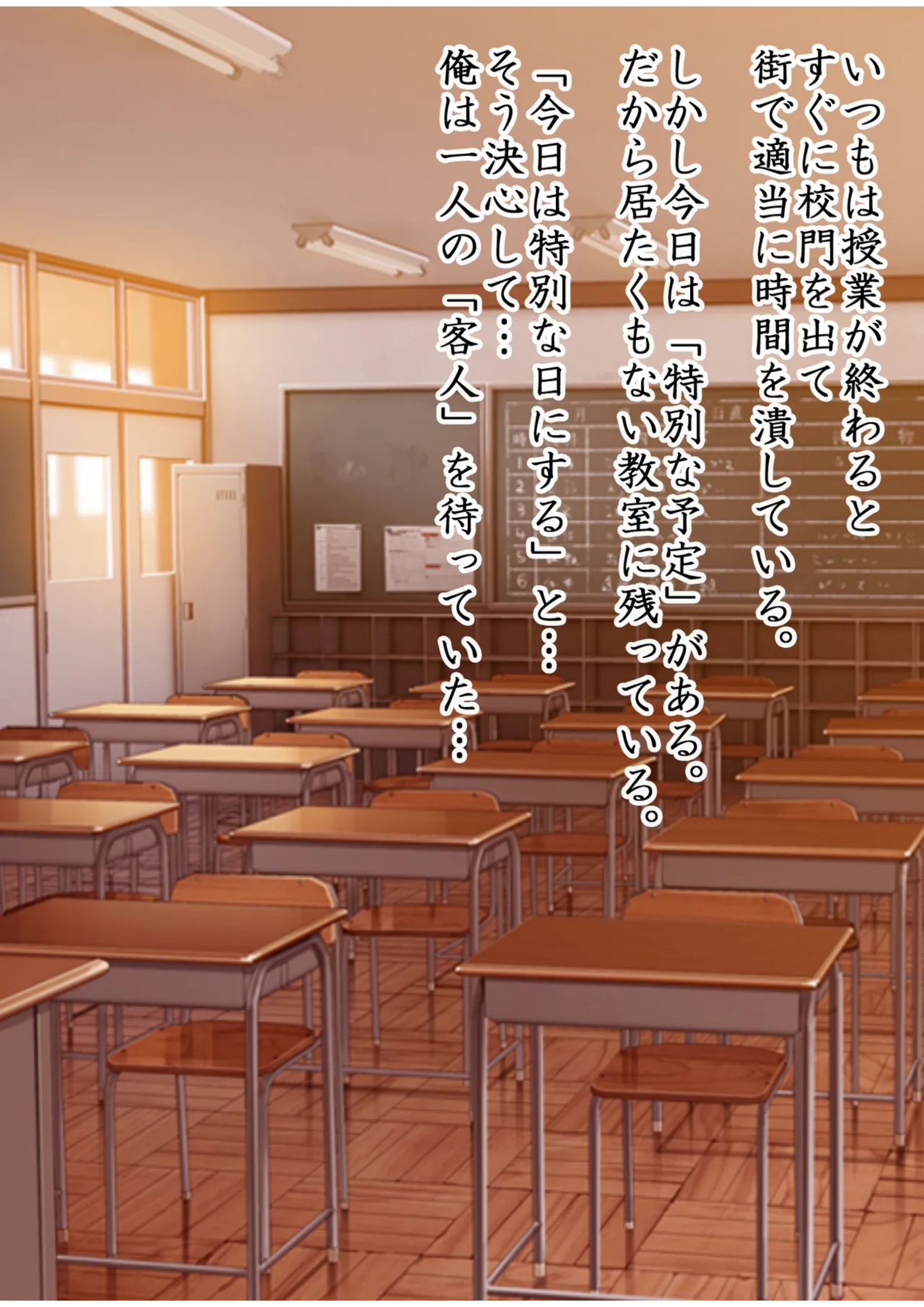
俺の居場所なんてものは
どこにもなかった…



いつもは授業が終わると
すぐに校門を出て
街で適当に時間を潰している。

しかし今日は「特別な予定」がある。
だから居たくもない教室に残っている。

「今日は特別な日にする」と…
そう決心して…
俺は一人の「客人」を待っていた…



ガラッ…

来たな

毎日、一人ずつ割り当てられる「日直」…
教室の清掃と戸締りの確認をするために
「そいつ」はやってきた…



な…あんだ、なんでまだ
ココに居るのよ…！

じゃ…邪魔だからどっか行ってくれろ！？
ほら、早く！



笹原 麗…

容姿端麗・文武両道の
生徒会長だ



エリート意識が強く、
自分より能力の低い者には高圧的な態度になる…
俺に対しては特にそうだった…

俺はコイツを待っていたのだ

何ニヤついでるのよ…!!
早く出ていきなさいよ!

わかったよ…出てきやいいんだろ?

俺は荷物をまとめるフリをして
鞆に手を突っ込んだ…そして…



プシュュー！

きゃあ！？

催眠スプレーを彼女の顔に向けて噴きかけてやった
高いカネを払わされたが、効果は確かだ
笹原麗はすぐに意識を失った



笹原麗は床に倒れた

四肢は脱力し、
彼女は完全に無防備な状態に
なっていた…

俺は彼女を抱え上げて
教室から出ていった…



う……ん……

あれ？

私……なんで寝ちゃって……

え！？何よ！
私…なんで裸なの…！
それにここ…体育館倉庫じゃない！

やっと目が覚めたか

！



あ…あ…あ…
教室にいた…!!

教師の連中は全員帰った…もう学校には誰もいない…
いくら叫んでも、ここには誰も来やしない…



…!!
わ、私に何をするつもり!?
変なことしたら、あ…あ…あ…退学処分は免れないわよ!

だろうな、だが問題ない

な…!!?

お前はこれから数時間後には
俺のことをチクろうなんて気が
一切しなくなっているからだ…

俺に抵抗することも
絶対にできなくなる…

そして、そうなるための準備は
もう終わっているんだ

自分の身体を意識してみろ
わかるはずだ…



な…身体が…熱い…!!?

ちよつとした薬を打たせてもらったよ…
時間が経てばもつと効いてくるぞ

な…なんてことを…
あつ…あううつ…!!

かああ

もじ
もじ

な…何が目的なの…
私を弄んで…一体何がしたいのよ…!!

やれやれ…優等生ともあろうお方が
言ってやらないと分からないとはな…



復讐だよ…
さんざん俺を見下してくれた女に、
俺をコケにするとどうなるか
身を以て教えてやるうってことさ…



お前は確かに優等生だ
だが、お前は一つの汚点…
「一人の男に身体を捧げる奴隷である」という
汚点を抱いて生きていくことになる…
俺はそれが俺の愉快でたまらないんだ…
それが俺の目的だ…

こ…この外道…！

何とでも言えよ…俺はなんとも思わないからな
それよりも、もう股間がグチャグチャじゃないか…
まだ何もしてないんだがな？

身体が「触ってほしい」って言ってるんだろう？
ん？

そ…そんなワケ…！
くう…！
どんどん効き目が強く…！



うあああっ…!!

おやおや、胸を触っただけで
強く反応するんだな…

それにしても、改めて見るとやっぱりデカいな…
いつも思うんだが、こんな胸を
学校で主張していて
気にならないのか?

びくっ
っんっ

学校中の男がお前の胸を見ているはずだぞ?
ククク…

そ…そんなハズは…



見てみるよ…
お前の乳首…こんなに勃ちまったぞ？



うそ…こんなになっ
たことなんてないの…
い…いやあ…見ないでえ…

ひいっ!?

俺はパンパンに膨れた突起に
おしやぶりついた

回の中で弾力がさらに
増していくのがわかる

手で触れているときは分からなかったが
彼女の鼓動に合わせて脈打っていた...
まるで勃起したペ○スのように...

こんなふうになるものなのだな...
媚薬の効果は想像以上のようだ...



ひやあっ…!!?

俺は口をすぼめて乳首を擦った
手でペ〇スをシゴくのと同じように…

ああ…な…何コレえ…!!

もはや彼女の乳首は伸びきっていた
脈打ちはますます強くなっていく…

ああっ…す…すごくイヤらしい…!!
あっ…何かク…あ…あああ…!!



ひゃあぁっ……！
お……おっぱいがぁ……

口の中で乳首がびくびくと脈打ち、
母乳を噴き出していた

普段、母乳など出ない身体であった彼女だったが、
媚薬はそれを変えてしまったのだ……
もはや普通の身体でなくなっていることは
明らかだった



いやっ…こんなの知らない…

彼女は困惑の感情を隠せなかった
表情からは少なからぬ不安と絶望が読みとれた…

いよいよこの男に「改造」されてしまう
ということが実感を伴って
きたようだった…

彼女の絶望に追い打ちをかけるために、
俺は別の部分を責めることにした



あっ!?! あああ...!!
ダメッ...! 舐めちゃダメえ!

俺が彼女の腹部に舌を這わせると
まるで電気が走ったかのように
全身を痙攣させ仰け反った

舌が当たるか当たらないかの
微妙な強さで全身を愛撫した

腹、胸、脚、首すじ
そして秘部の周辺...

既に全身が性感帯に
なっていることを
彼女に思い知らせた

イヤッ...!!
やめてえ...!!

拒絶する言葉とは裏腹に
身体のほうは
触れられる喜びに震えていた



あっ！？ウソ……！
イってる！私イっちゃってる……！

まだ肝心のところには
触れていないのに
彼女は絶頂に達した

俺が舌で肌に触れる度に
彼女の下半身からは
プシュプシュと愛液が
噴き出した

まるで、指で触れれば
音を奏でる楽器のようだった

うそ！こんなことで……！
止まって！止まっ……
あああっ！

抵抗も虚しく
彼女は従順になるしかなかった

もはや主人の命令に従って
音を奏でるしかできなくなっていた



くっくくうっくく
だめっ...そんな焦らさなで...びっ

ブルブル

彼女の秘部は
もの欲しそうにひくついで
ヨダレを垂れ流していた



あっ…だめっ
由ちゃう…!!
えっちな汁でちゃう…!!

びん

さわ
さわ

フッ
フッ

びん
びん

指先で尻を
撫でまわすだけで
彼女の秘部は痙攣し、
愛液を噴いていた

彼女から出た体液は
足元で水溜りを作るまでになっていた



「おやおや、こんなに床を汚しちゃって…
「校内が清潔に」がモットーでは
ありませんでしたかあ？
会長…

ふーっ…ふーっ…
あ…あんだ絶対に許さないわ…

流石というべきかなんというか…
ここまで身体が壊れても
精神のほうは屈伏しない…

身も心も従順な存在に「仕上げる」ために
俺は最後の仕上げに取りかかった…



ほれほれ、
まだココは弄ってないよなあ？
どうだ？
大事なところを
弄り倒して欲しいんじゃないかな？

くっ…！ くっ…！

俺が彼女の下腹部に向かって
指を動かす真似をすると、
再び股間からヨダレが垂れ始めた

くっ…！

勝手に愛液が…！
手を…手を止めなさい…！
ふーっ…ふーっ…



くっ……! ふっ……!

既に彼女の頭は朦朧と
しているようだった

それでも理性を保つため
歯を食いしばって
必死の形相で俺を睨みつけている
しかしそれは、彼女の精神が
ギリギリの状態であることは
目に見えていた



ああ...? ああ...♡
やめて...そんなの近付けないで...!

俺のぺ○スが顔に近づくと
彼女の表情が変わった

男根の臭いに鼻を突かれ、
思わず艶めかしい声を出してしまったようだ

ううっ...はあ...はああっ...
も...もうダメ...

緊張していた身体が一気に緩んだ
彼女は色気の宿った眼で俺のぺ○スを見つめた
そして...



んむっ…じゅる…♡

俺のペ〇スにしゃぶりつき、
舌を絡ませ始めた

温かい唾液で肉棒を濡らし、
じゅるじゅると嫌らしい音を立てて
吸い上げてくる



んふうっ…ふう…
お…お○んぽください…
あなたの大きなおち○ぽ
私の中にください…

唾液のしたたる回で
俺の肉棒を懇願し始めた

彼女の舌の回からは愛液が
垂れ流されていた

俺はいきり立つぺ○スを抑え、
まずは彼女の飢えた秘部を相手にすることにした



はあああっ……！
しゅごい……！しゅごいよお……！

秘部を舌で責めると
彼女は歓喜の声を上げ始めた

ガク
ガク

お……お願いしますっ……
お○んぽ……挿れてください……私の中を突いてください……

ぐんぐん

彼女はもう我慢できないようだった
俺は肉棒を構え、彼女の膣内に向けた



んあああっ…
きたあ…!! しゅ…い…奥まで来るよお…!!

彼女の膣はすんなりと
俺を受け入れた



もはや身も心も
俺に開き、委ねていた

腹の奥を突かれる度に
彼女の身体は電撃を受けたように震え、
歓喜の喘ぎを上げていた

グチャッ♡
グチャッ♡

はあっ…はあっ…!!
イク…イクそう…!!
い…一緒にお願いします…!!
精子…たくさんください…!!



俺ももうすぐ限界だった

膣が締め上げてくる…
腰から熱い感覚が込み上げる…

グチャッ

グチャッ

あっ……ああああ!!

びくっ



きたあ……!!
熱いのたくさん
来てるよおお……!!



おっ

おっ

はー…はー…

す…す…ごかったです…

精子たくさん…

いただきちゃいました…

ありがとうございます…

彼女は恍惚とした表情で
喜びと感謝の言葉を口にした

彼女は「完成」したようだった…
彼女は将来にわたって
自ら喜んで身を捧げる身分に
なったのだ…



それから数力月…
彼女は今も生徒会長として
責任を果たしている

しかし、生徒会で衆目に晒された日…
体育の授業があった日など…

人から注目を浴びた日などは
俺を呼び出すようになっていた…

最近普通の日にも
会うことが増えているが…



また、彼女の俺に対する態度がガラリと変わったのに習って、周りの人間もそれに合わせて俺に対する態度を改め始めた…

俺の学生生活は変わったのだ



ガラッ：

おや、客人かな？



月 日		曜日・日数	
時	教科	内 容	持 ち 物
1	国語	小説の読み方	筆記用具
2	算数	小数の計算	計算機
3	社会	地域の歴史	資料集
4	理科	植物の観察	観察用道具
5	体育	体育大会	運動服
6	音楽	通学入校の歌	楽器

「すみません…
今日も…お願いできますか…?」
やれやれ、今日もお呼びのようだ



fin
ご購入ありがとうございました



		月	日	曜日・日数	
時	教科	内 容		持 ち 初	
1	国語	国語の基礎知識		国語	
2	算数	算数の基礎知識		算数	
3	社会	社会の基礎知識		社会	
4	理科	理科の基礎知識		理科	
5	英語	英語の基礎知識		英語	
6	音楽	音楽の基礎知識		音楽	















もじ
もじ

か
あ
あ

















































		月	日	曜日・日数	
時	教科	内 容			持 ち 物
1	国語	国語の基礎知識			なし
2	算数	算数の基礎知識			
3	社会	社会の基礎知識			
4	理科	理科の基礎知識			実験道具、筆記具
5	体育	体育の基礎知識			運動服、シューズ
6	音楽	音楽の基礎知識			楽器、楽譜

